

韓国小学校社会科授業分析

— 風俗画を用いた歴史授業「想像的理解方法を通じた歴史学習」の場合 —

李 貞 姫

(2008年10月2日受理)

An Analysis of Social Studies Lesson in Korean Elementary School
— Learning history through imaginative method —

Jung-Hi Lee

Abstract: The purpose of this paper is to analyze history lesson of social studies in the Korean elementary school using alternative framework, teacher's conceptions and structural of knowledge. Through this analysis, I could to draw out the following structure and features history class in the Korean elementary school. Firstly, I found that there is a new history lesson trying to improve historical knowledge by using pictorial materials. Secondly, I found that the teacher does not narrate historical knowledge, but instead, students create the historical knowledge through activities such as giving viewpoints, comparisons, and logical thinking based on pictorial materials.

Key words : Korea, elementary history lesson, analysis of lesson, historical thinking, imagination

キーワード : 韓国, 小学校歴史授業, 授業分析, 歴史的思考, 想像力

I. はじめに

本研究は、韓国小学校社会科歴史授業を取り上げ分析することにより、韓国の社会科歴史授業の構造及び特徴を明らかにすることが目的である。

これまで韓国における小学校社会科授業研究は諸外国の新しい理論の紹介と共に、それを実際の授業へ適用しその効果を検証することが主であった。

最近になって教師の有する教科関係知識と授業との関連についての研究¹⁾や授業批評²⁾などの授業分析研究が行われるようになってきたが、その多くは教師の立場からの研究であり、子どもの認識の獲得過程や概念の変化・変容について研究したものは少ないのが現状である。

一方、日本の社会科授業研究は大きく二つのアプローチによって行われてきた。その一つは、森分孝治を中心とした社会科学の構造や知識の構造など教科内

容を重視するアプローチ³⁾であり、もう一つは重松鷹泰や上田薫を中心とした子どもの思考を重視するアプローチである⁴⁾。前者は主に記号・言語の分析を通して社会科授業の客観的研究を目指している。後者は、子どもの認知・学びを重視し、子ども達の思考体制を明らかにすることを目指している。しかし、授業を教師と子どもが教材や学習活動を通して相互作用をする活動であることを前提にしている以上、授業研究においてはこれらの二つのアプローチを同時に考慮し、新たな考えを加味して授業研究を行うべきではなからうか。

そこで、本研究は韓国の小学校の歴史授業がどのように作られているのか、そしてどのように構造化されているのかを分析する。また、教師がどのように教えるのか、それを子どもはどのように理解するのか、それら2つがどのように結びついているのかをHalldenの概念的枠組み及び「代替的枠組み」⁵⁾論を手がかりにし分析を行う。

代替的枠組みとは、教師の予期する概念的枠組みとはちがった子どもが持っている枠組みのことである。代替的枠組みは、教師のめざす概念や観念に到達する思考過程において一般には望ましいものではないと考えられている。しかし、この枠組みがあるからこそ、子どもは授業の中で多様な考えに出会い、思考を深めることができ、教師もめざす方向へ授業を展開させることができるのである。さらに、この代替的枠組みを見つけることで、授業全体の進行をより詳細に検証し、予期される授業展開を分析し、よりよい授業展開を新たに作り出すことができる。

そこで本稿では、指導案の分析を通して教師が子どもにも獲得させたいと意図している概念や観念は何なのかを明らかにする。また、分析方法として授業における知識の構造と概念的枠組み及び代替的枠組を用いて歴史的知識習得の過程を概念変容として解明する。

分析対象は2004年5月10日釜山教育大学校付属小学校で公開された6年「想像的理解方法を通した歴史学習」(授業者:アン・シンヒ)の指導案(細案)を取り上げる。

II. 韓国小学校社会科の歴史授業

1. 小学校歴史授業の現状と変化

「民主市民的資質の育成」を目標としている韓国小学校社会科での歴史教育は伝統的に知識に過度に重点を置く解説式授業が主流であった。解説式授業は主に教科書を中心に歴史内容を説明する形で行われている授業であり、学習者自ら学習課題に適切な資料を収集し解釈・総合する能力をないがしろにし、歴史教育で追求する歴史的思考力と歴史意識の育成に不適切であるという批判を受けている。これに対する代案として探究式授業が広がった。探究式授業は教師が基本的知識や中心概念などを教え込むのではなく、子どもたち自身の発見、探究する過程や手順を重視する授業である。しかしこれもまた過程と方法だけを過度に強調して、歴史的内容を見過ごしているという批判を受けている。

以上のように解説式授業、探究式授業で歴史的思考力を育成するには限界があった。したがって、上記の課題をどのように克服し、歴史的思考力の育成をどのように行うかが韓国小学校歴史授業での重要な課題になっている。

2. 歴史的思考力を育成するための授業

韓国小学校で歴史的思考力を育成するため実際に行われている歴史授業は次の三つのタイプ⁶⁾に分けて説明することができる。

第一は、教科書の解説式授業である。これは教師が

教科書を基に重要な歴史内容を読んで説明する授業である。授業は教科書内容の再構成の程度によって異なる。例えば、教科書内容の要旨を重点的に説明したり、教科書そのまま説明する、あるいは教科書の範囲を越えた説明をするといったように。共通するのはいずれも子どもが理解しやすいように伝達して知識を与えるということである。したがって、主に教師の説明中心の暗記式授業であるのが問題である。

第二は、調査発表授業で子どもたちが調査した内容を発表し、その内容について質問したり答えたりする授業であり、子どもが主体となる授業である。このような授業は社会科での探究と問題解決の強調とともに1990年代の開かれた教育の影響で社会科に定着している授業の形態である。しかし過程だけを強調する調査発表授業では教師の介入が過度に消極的であるために捉えられる歴史の内容が子どもの歴史的思考を刺激できないという指摘がある。

第三は、ICT(Information and Communication Technology)⁷⁾活用授業である。これは知識は認識する主体によって構成されるものであるという立場の構成主義的認識論の影響や情報化の影響で行われる授業である。歴史授業においてICT資料の活用は主にインターネットを通じて行われている。ICTの活用程度(全通的あるいは部分的活用)により授業は多様な形になるが、写真や絵、挿絵、動画などが主に活用される。全通的に使う場合は子どもの活動や歴史的思考を阻害する場合が見られる。また部分的に活用するときは、一枚の写真を通じて、歴史内容を確認して歴史事件の因果関係を推論したり歴史的想像を因る場合もある。

これらのタイプから解説式授業はそのまま残っているが、探究式授業は調査発表授業やICT活用授業の形で行われているのが分かる。調査発表授業での探究は子どもに調査させることで事実を根拠に答えを発見させて歴史的知識を獲得させる過程のことである。一方、ICT活用授業での探究は子どもに想像させたり、比較させたりするなど考えさせる活動を通して歴史的知識を作り出すことに特徴がある。

本稿で取り上げる授業はこの3つのタイプのうちICT活用授業に属するものである。

III. 歴史授業「想像的理解の方法を通した歴史学習」の分析

本稿では韓国の小学校6学年社会科歴史学習を、歴史的思考力や歴史的想像力がどのような過程で獲得されるのかに注目して分析し、授業の構造や特質を明らかにしたい。

授業は教師の指導と教材と子どもの学習の3者が相互に結びついて進行する。したがって、本稿では韓国の小学校6学年社会科歴史学習の指導案の事例を取り上げ、そこに内在する知識の構造と教師のもっている概念的枠組みを分析することで、子どもの歴史的思考のプロセスを探る。

1. 指導案と授業の流れ

本稿で取り上げる授業は2004年釜山教育大学校付属小学校で公開された6年「想像的理解方法を通じた歴史学習」である。

本授業は韓国社会科初等学校教育課程の三番目の目標である「各時代の特色を中心にわが国の歴史的伝統と文化の特殊性を把握し、私たちの文化と民族史の発展の姿を体系的に理解し、これを基に人類生活の発達過程と各時代の文化的特色を把握する」⁸⁾を基にし開発されたものである。

本時は6学年1学期「社会」の3つの単元のうち「1. 私たちの民族と国家の成立」に属している。⁹⁾この単元では「3, 4, 5学年で習った地域と市や都の由来、または民族の文化生活領域に関する基礎的な歴史学習を基に、民族の根元と生活根拠地に関心を持つようにして、遠い昔から近代に至るまでの歴史の流れを有名な人物と事件を中心に概略的に把握することが目的」である。またこの単元では「私たちの民族と我が国の形成、発展および他の民族との関係、民族文化と

社会経済の発展の姿を理解することによって歴史的変化と因果関係を把握する能力を育て、先祖が国を愛した心を見習う」ようにしている。

この単元のうち「儒教を政治の根本とした朝鮮」の主題は民族国家の確立を成し遂げた朝鮮前期に成り立った政治・外交・文化・経済・軍事的側面での変化とこのような変化が国民の生活に及ぼした影響を歴史的接近と主題的接近を通じて理解するのに重点を置いている。したがってこの主題では朝鮮の建国と政治・外交・文化・経済・軍事的側面での変化を把握して多様な資料を通じて、経国大典の編纂、世宗の訓民正音の創製、蔣英実の科学的発明、壬辰倭乱、丙子胡乱という歴史的事件が国民の生活に及ぼした影響を理解し、両班と庶民の生活の姿を理解させることを主眼としている。

以上の単元観をふまえて教師は本授業で「両班と常民たちの生活様子を比較できる」、「身分制度について述べることができる」という二つの目標を設定している。すなわち、朝鮮時代の身分のうち両班と常民という身分の生活様子を比較させることで歴史的思考力を図っているのである。

1) 指導案

本時の指導案は40分の授業で構成されており、18/22時である。

表1 本時の指導案

■ 本時学習の展開

1. 題材：文化の発達と庶民たちの生活様子（18/22時）
2. 本時学習の目標
 - ・両班と常民たちの生活様子を比較できる。
 - ・身分制度について述べることができる。
3. 教授・学習の展開

段階 (分)	学習内容	教授・学習活動		資料(*)及び 留意点(・)
		教師	児童	
問題の探り (10')	前時学習の想起	T. クイズで前回は勉強した内容を確かめてみます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">クイズで習いましょう。 1. 朝鮮建国後成り立った色々な政策は? 2. 漢陽が都になった理由は? 3. 儒教的生活の姿が今まで残っているのは? 4. 漢字がない時、わが先祖が使った字は? 5. 朝鮮初期に作られた科学機具は? 6. 朝鮮時代の身分は?</div>		<ul style="list-style-type: none"> ・クイズを通じて、事実に知識を確認する。 ・適切な強化を与える。 ・前回到解決されなかった内容や補充する内容を発表する。
	学習問題の案内	T. 前回は勉強したことに対し補充するものがあれば発表してみましょう。 T. 前時にもっと勉強してみようと思ったことは何でしたか?	S1. 世宗大王の業績に関してさらに発表してみます。 S2. 私たちの生活に残っている儒教の姿についてさらに発表してみます。 S1. 朝鮮時代の身分制度を通じて、今日ではどうか比較することです。	

	学習問題の提示		S2. 貴族と庶民の姿をさらに詳しく調べてみることです。	・板書する。
		風俗画を通じて分かることを探してみましょう。		
自己探索 (3')	自己探索情報集め	T. 絵に描かれているものを発表してみましょう。	S1. 遊んでいる人もいます。 S2. 農夫が仕事をしています。 S3. 煙管もあります。	・風俗画を提示する。 ・ブレーストーミングを行う。
	観点を調べる	T. 絵を見る時、何を中心に見なければなりませんか？	S1. どんな人物がいるのか、また表情、服装も調べます。 S2. 物や持ち物を探してみます。 S3. 行動を中心に見なければなりません。	
自己学習 (20')	資料の分類	T. 絵を基準により分類してみましょう。	・絵を見て基準により分類する。 -姿 -表情 -服装 -持ち物	・事実を調べ分類する。 ・事実を描写する。
	事実の描写	T. 絵を見て分かる事実をグループごとに探してみましょう。		・グループ学習をする。 *グループワークシート
		1. 人々の表情, 服装, 行為など 2. 持ち物を使う姿など		
	当時の生活の予想	T. 探したことを発表してみましょう。 T. 絵を見てその当時の人々の生活の姿を想像してみましょう。	S1. 絵にはで全部7人がいます。 S2. 冠をかぶった人もいてほうきを持っている人もいます。 S3. 穀物を持っている人もいます。 ・生活の姿を推理してみる。	・昔のことを推理する。 *ワークシート
	想像したこと	T. 想像してみたことを発表してみましょう。	S1. 服装から見る時、両班と常民が着た服の模様と生地が違うと思います。 S2. 両班は酒に酔ったように見えます。なぜなら座っている姿が斜めに座っているからです。	・発表した内容に対して疑問を持つようにし、グループ討議した内容に補充するように誘導する。
	質疑補充 予想	T. 発表した内容に対して質問や補充する内容があれば発表してみましょう。 T. これから人々の生活の姿はどうなるのか発表してみましょう。	S1. 主人に仕事をした代償で主人から穀物を分けてもらうでしょう。 S2. 農夫は熱心に仕事をして、自分の畑を持つことができるでしょう。 S3. 農夫がいくら熱心に仕事しても自分の畑を持つことができないでしょう。その理由は身分制度がずっと維持されたためです。	・自由討議が行われるようにする。
自己発展 (5')	T. 私がこの絵の中での農民や両班ならばどんな話をしますか？	S1. 農夫ならば、身分制度がない世の中で生きたいと話そうです。 S2. 熱心に仕事をしてても食べ物が不足すると仕事をする気がないと話そうです。 S3. 両班ならば広い畑を見てうれしくて気持ちいいです。 S4. 両班は怠けて欲が多くて農夫に労賃を少なくしていると話そうです。	・感情移入を促し状況的に理解するようにする。	

	身分制度の批判	T. 朝鮮時代の身分制度についてどう思いますか? T. 今日と比べて考えてみるならばどんな気がしたのか発表してみましょう。 T. これからはどうなるのでしょうか?	S1. 公平でなかったようです。 S2. 人はみな全く同じだが、差別があるということは良くなかったと思います。 S3. その時代には仕方ないと考えます。 S1. 今日では貴族と庶民がなくて、身分制度はなくなったとはいうが差別はあると考えます。 S2. 少しは変わったが男女差別があります。 S1. 身分制度にともなう差別はないが経済などの部分で差別ができそうです。	・批判力を育む。 ・今後の社会を予測して、自身が歴史の一部であることを感じさせる。
確認及び評価 (2')	学習内容の整理 次時予告	T. 風俗画を通じて分かったことは何ですか? T. 二回の戦乱の克服について勉強します。どんな課題を調査するべきか発表してみましょう。	S1. 風俗画が描かれた時代の姿を想像できました。 S2. 両班と常民の生活から身分によりやることが違うということが分かりました。 S1. 壬辰倭乱に対して調査してみます。 S2. 清国について調べてみます。	・課題の内容や水準は自分が決める。

2) 授業の流れ

本授業は図1の風俗画「打作」を用いて授業を構成している。

風俗画¹⁰⁾は人間が生きている様子を表現した絵である。ここには民衆の生産活動や生活周辺の平凡な日常史を世俗的なものとして思った中世の知識層の思想意識が内包されている¹¹⁾。風俗画の特徴は特に人体の造形と腹式、周囲の付属物、その他の背景を共に描写する複合性にある。また、風俗画はある時期を過ぎってしまうとなくなってしまう見ることができない無形性を有形性にする。さらに、他種の絵画より時代の変貌をよく表し、生きていく人間の様子を正直に表現する¹²⁾という特性を持っている。教師はこのような風俗画の特性を生かし、歴史授業に活用しているのである。



図1 金弘道「打作」

授業全体の流れは図2のように大きく7つの過程で構成されている。この中、授業の展開部はSandlerの認知的に図を読みとる段階¹³⁾によって構成されていると考えられる。その流れを説明すると次の通りである。

まず、Iの「絵からの情報の収集(Collect Information from Sources)」段階では、風俗画の「打作」をみて、そこに登場する人物や道具などから色んな情報を収集

する。IIの「資料の整理・分類(Classify and Sort Data)」では、絵に現れた人物はどんな人たちなのかを一定の基準(表情、行動の様子、物、道具、身なりなど)によって分類し、比較する。III、IVの「事実の陳述(Formulate Generalization)」と「推理(Draw Inferences)」では、IIで現れた人物の行動や様子の事実を描写・把握し、当時の人々の生活像を想像し、そこから予測される変化を推理する。Vの「予言(Make Prediction)」では、絵の人物になって考えることで朝鮮時代の身分制度について批判し、これからの社会像を予測する過程になっている。

【授業段階】	【授業内容】	【授業の構造】
問題の探り	・前時学習の想起 ・学習問題の確認	導入
自己探索	・絵に表れているのを発表する ・絵を見る視点を話し合う	I 絵からの情報の収集
自己学習	・絵に表れているのを基準によって分類する	II 資料の整理・分類
	・絵を通して分かる事実を描写する	III 事実の陳述
	・当時の人々の生活像を想像して発表する ・当時の人々の生活像の変化を予想する	IV 推理
自己発展	・自分が絵に登場する農民や両班だったら ・身分制度について批判する ・これからの社会像を予想する	V 予言
確認及び評価	・風俗画を通じて分かったことを確認する ・次時の予告	整理

図2 授業の流れ

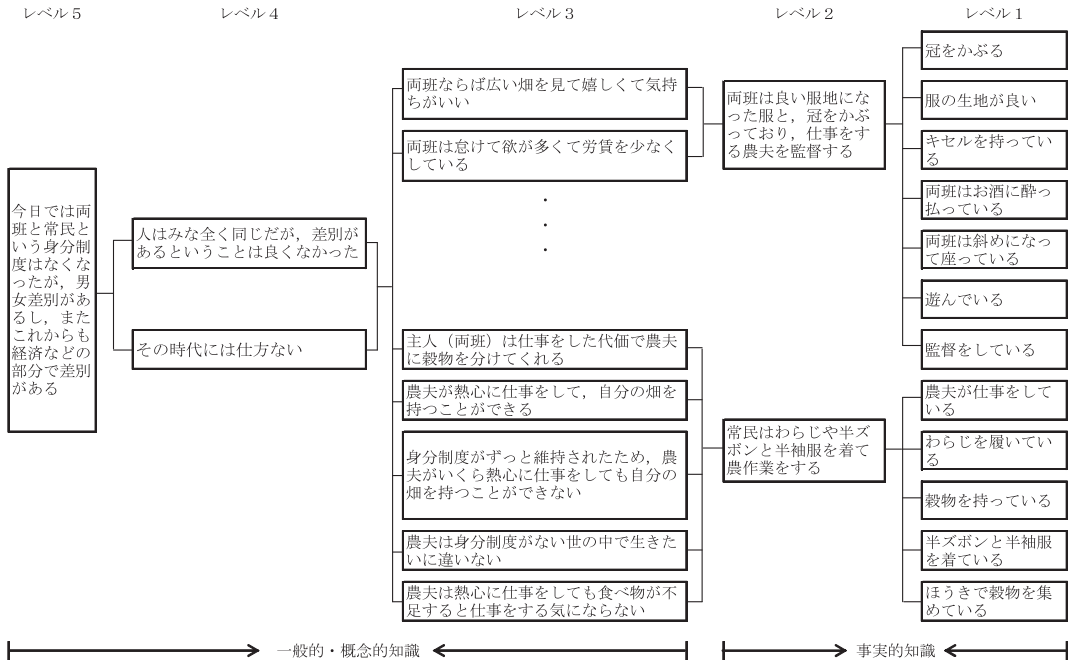


図3 知識の構造図

2. 授業の枠組み

それでは、本授業における知識の構造と共どんな枠組みの構造が働いているのかを究明したい。

(1) 知識の構造

教師は本授業を通して何を教えようとするのか、どのような歴史的知識がどのような順番で提示されているのかを知識の構造で示すと図3のようになる。これは指導案に示されている教師の発問や予想される子どもの答えから作成したものである。

(2) 教師における概念的枠組み

次に図3の知識の構造をどんな概念的枠組みを用いて教師は子どもに身に付けさせようとしているのかを考察する。

まず、教師が考えている概念的枠組みから明らかにしよう。

教師は本授業で「両班と常民たちの生活様子を比較できる」、「身分制度について述べるができる」という二つの目標を設定し「想像的理解方法を通した歴史学習」を計画している。過去の出来事を想像的に理解するためにはその背景にある歴史的知識が必要である。そのため教師は前時学習で「朝鮮時代の身分制度」についての学習に、そして本時は知っている知識を活用できる能力の育成に重点を置いている。また複合的かつ多角的に考えることができる風俗画というモチーフを提供することで歴史的思考力の育成を図

ている。

さらに本時は「両班と常民の比較活動」を通して歴史的想像的理解を図っている。このように本時には前時学習である朝鮮時代の身分制度の枠組みと両班と常民の対立関係の比較活動の枠組みという大きく二つの枠組みになっているのである。

小学校社会科教材研究で主に使われている教師用指導書には2時間構成で提示されている本題材を、教師は第1次には「社会」と副読本「社会科探究」教科書を中心に朝鮮時代の身分制度についての歴史的事実を概括的に把握し認識させている。その主な内容は次のように述べられている。

朝鮮前期に農業技術の発展により稲作が増えることはもちろん農業生産力も大きく成長した。また政府の権農策によって農業の発展は加速化された。しかし、農民の間では階層間の格差も大きくなり、農民に与えられた負担も大きくなった。朝鮮時代は身分制度が厳しい時代で、このような身分は概して両班、中人、常民、賤民に区分され、身分に似合う生活様式が差別的に存在した。

支配層として両班の生活と朝鮮時代の大多数を占めた常民の生活はずいぶん違う。主な仕事と家族構造、身なり、楽しむ余暇生活など殆んど全ての面で明らかな差が存在した。両班は官吏になって、国の仕事に参加し、忠孝と礼儀を重要視して読み書きの勉強をした。

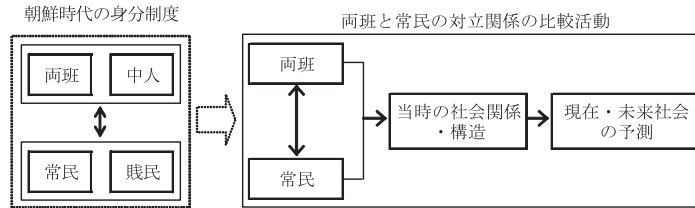


図4 教師の概念的枠組み

中人は両班を助けて、官庁で仕事をした。また常民には農民、手工業者、商人がいる。農民は国家に税金を出したし、軍隊に行って国を守って国の重要な工事に動員された。また商人は官庁に必要な物や国民が必要とする物を売った。賤民は奴婢といやしいことに従事した。

このように前時には朝鮮時代の支配層である両班や中人そして、被支配層である常民や賤民という身分制度について学習している。これが本時の授業に作用し、支配者である両班と多くの割合を占めていた常民の生活様子を具体的場面をもって比較する学習として計画されている。

すなわち、教師は朝鮮時代の身分制度の理解と共に支配層である両班と被支配層である常民との比較を通してその対立関係を気づかせている。また朝鮮時代の身分制度や社会関係を批判的に判断させたり現在社会の状況の把握、さらに未来社会の様子まで予測させることで歴史の変化やその変化の主体が自分たちであるということを認識できるようにし、歴史的思考力、歴史的想像力の育成を図っている。これが教師が持っている概念的枠組みである。

では、教師は図3の知識の構造図に示されている知識をどのように子どもに獲得させるのかを教師の概念的枠組みから確認したい。

この枠組みのなかで、子どもは風俗画「打作」に表れている服装と人物、人物の行為、配置関係などを把握・比較する活動を通して絵に登場する人物が両班と常民のうち農民であることを理解する。前時で両班の身なりが冠や道袍（両班が通常着用した外出用の礼服）、皮履をはくという事実と一般の常民はわらじをはくことを理解した。子どもはこのような知識を応用して、当時の具体的生活様子が描いている絵を見ながら両班と常民の服装と行為から図3の知識の構造図のレベル2のように上下関係や社会制度を把握する。

また、「絵を見てその当時の人々の生活の姿を想像してみましょう」という発問を通して子どもの歴史的想像力を働かせて仕事をする人と休むことができる人が決まっていることとや休んでいる人はただ見るので

はなく、常民が熱心に仕事をしているのかを監督しているということに気づかせ両班常民の上下関係だけでなく対立関係を把握させるのである。

さらに「私がこの絵の中での農民や両班ならばどんな話をしますか?」という発問をし、感情移入といった操作を通して朝鮮時代の両班や常民になって考えさせている。この活動を通して共感的理解を図り、当時の両班や常民の対立関係や社会関係を比較させ理解すると共にそのような歴史事実を批判的にとらえさせる。また教師は単純に過去としての歴史的事実を習得することに重点を置くのではなく、過去の出来事や身分制度などの社会制度が現在までどのような影響を及ぼしているのか、身分制度の変化などを考えさせて「今日では両班と常民という身分制度はなくなったが、男女差別があるし、またこれからも経済などの部分で差別がある」というレベル5段階の知識を獲得させる。このように子どもの知識を過去、現在、未来へ拡大させる歴史教育活動を通して歴史的思考力、歴史的想像力を育成させている。

3. 歴史的思考力、歴史的想像力の育成

歴史教育の究極的目標は「子どもに歴史意識を高め、歴史的思考力の育成」¹⁴⁾を図ることにある。それでは本授業ではどのようにして歴史的思考力を育成させるのかを教師の準備段階から考察する。

本授業では子どもに図3のような歴史的知識や図4の教師の意図している枠組みを獲得させ、歴史的思考力や歴史的想像力を育成させるための準備として事前調査、絵画資料、発問、という3つの段階を準備している。これら3つの段階を通してどのように歴史的思考力や歴史的想像力を育成しようとしているのかを明らかにする。

(1) 事前調査の準備段階

本時授業設計において教師は次のようなアンケート調査を実施し、子どもの実態を把握している。

実態調査は2004年4月29日6学年2班32人を対象に質問用紙および観察法によって調査された。その調査の内容及び結果は表2の通りである。

表2 子どもの実態調査内容及び結果

1. 視覚資料(壁画, 絵, 写真)に対する関心度および学習経験についての調査

区分	調査項目	反応	人数	百分率 (%)
関心度および興味度	歴史と関連した壁画, 絵, 写真を見た時間があるように調べる。	そうである	17	53.1
		普通である	15	46.9
		そうではない	0	0
経験	見解資料を活用して勉強したことがある。	よくある	26	81.2
		たまにある	6	18.2
		したことが無い	0	0

2. 視覚資料についての分析能力

反応	人数	百分率 (%)
絵や写真を見て歴史的事実を見出して当時の姿を推理することができる。	24	75
絵や写真を見て歴史的事実を見出すことはできるが、当時の姿を推理できない。	6	19
絵や写真を見て歴史的事実を見出すことができない、当時の姿を推理することもできない。	2	6

3. 身分差別に対する意識調査

反応	人数	百分率 (%)
身分差別がある。	18	56.3
無い。	14	43.7

このような実態調査結果についてアン教師の分析及び対策を簡単に要約すれば以下のようである。

- ①視覚資料を使う歴史授業に対する興味度が非常に高く現れた。
- ②全員が視覚資料を活用して勉強した経験があった。
- ③視覚資料の分析能力では絵や写真を見て歴史的事実を探って当時の姿を推理できる子どもが75%であり、事実は見出すが当時の姿を推理できない子どもが19%、両方ともできない子どもが6%であった。
- ④今日の身分差別に対する意識調査では身分差別があると答えた子どもが56.3%で、その理由としては男女やすることなどにより待遇が違うなどであった。

以上の実態調査結果によれば視覚資料に対する関心や興味が深く、授業を受けてみた経験があるので視覚資料による授業は無難に展開すると見られる。

一般的な視覚資料の解釈程度を見ると、分析能力については、事実に基づく姿を見出すことや推論することで比較的断片的なことしか見出す子どもが多かった。したがってもう少し分析的の接近ができるように観察視点を提示して、絵を分析するように指導しなければならないだろうし、昔の身分制度と今日の身分差の意味が違うことと時代によりその意味が変化して、その変化の主体が自分であるということを自ら認識するように指導しなければならない。

このような事項の調査に基づき、教師は子どもの歴史に対する意識や関心また、歴史認識のレベルなどを把握することで、本時での子どもの歴史的知識や教師の概念的枠組みの獲得ができるように計画している。

こうして歴史的思考力や歴史的想像力を育成するための基盤を設けているのである。

(2) 絵画資料の準備段階

子どもの実態調査に基づいて子どもの歴史的想像力の育成をするため、本時授業の主題や子どもの歴史的認識レベルに適切な風俗画「打作」という絵画資料を選んで準備する。

歴史授業における絵画資料の活用の有効性については既に多くの研究¹⁵⁾で明らかになっている。歴史学習は他の教科と違って直接体験していない過去をその対象としている。そのため文字資料よりは絵のような視覚資料が子どもの歴史理解により効果的に利用できる。また絵画は子どもに新しい経験や想像力を提供する。さらに子どもに歴史への興味・関心を深めるため小学校歴史授業で絵画資料がよく使用されている。

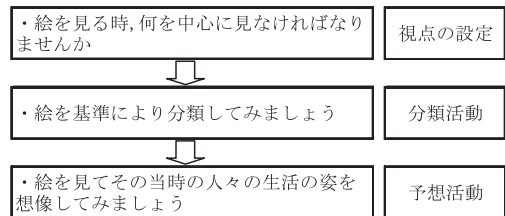
教師はこのような絵画資料の歴史教育での有効性を十分認識し、歴史授業で絵画資料を活用することで子どもの積極的な想像力を引き出すことで歴史的思考力、歴史的想像力の育成を図っているのである。

(3) 発問の準備段階

絵画資料を使う歴史授業で子どもの歴史的想像力を引き出すためにもっとも重要な準備は教師の発問である。

歴史的思考力、歴史的想像力を育成するため、本時に示される主な発問をあげると次のようである。

表3 歴史的想像力の育成のための発問の過程



まず、教師は「絵を見る時、何を中心に見なければなりませんか」という発問を準備して絵を見る時、見る視点や観点を決め思考活動をするようにしている。歴史学習で「絵画を使用するときには視点を子どもたちに発見する」¹⁶⁾ことができるように指導することが重要である。絵画資料から子どもたちに視点を発見させることで歴史的事実や出来事を理解することができ、歴史的思考力が育成されるのである。本授業においてもこのように視点を立てて思考させることで朝鮮時代の身分制度について理解できるようにしている。

また、「絵を基準により分類してみましょう」という発問を通して、立てた視点から子どもに基準によって分類させ、朝鮮時代の身分のうち両班と常民を比較させることで歴史的事実を理解する活動をしている。

さらに「絵を見てその当時の人々の生活の姿を想像してみましょう」という発問を通して当時の生活を想像させている。そこからまた「なぜ仕事をする人と監督する人が分けられたのだろうか」といったような疑問を提示することで朝鮮時代の厳しかった身分制度で両班と常民の対立や葛藤に気づかせているのである。

歴史での想像的理解は「証拠と関係なく成り立つのではなく、むしろ証拠を基に可能な思考活動で創造的性格を持っている」¹⁷⁾のである。このような発問の過程の準備を通して教師は単なる勝手な妄想ではなく、歴史的資料に基づいて既に知っている証拠を基にして歴史的想像力を働かせることで歴史的思考の幅を拡大しているのである。

4. 授業の特質

本授業の特質は大きく3つある。

第一には、子どもの歴史的想像力を掻き立てることで歴史的思考力の育成を図っていることである。

本授業では歴史的出来事や歴史的事実だけを教えるのではなく、複合的かつ多角的に考えることができる「打作」という風俗画をモチーフとして提示することで子どもの歴史学習への興味・関心を引き起こしている。また絵に基づいて登場する人物や衣服、しぐさなどを見て、当時社会の生活の様子を想像させている。このように子どもの歴史的想像力を掻き立てることで子どもが当時両班と常民の上下関係や社会制度を把握する構造になっている。

本授業では歴史を固定不変の知識として教えるのではなく動的構造として、また子どもを客観的な歴史的知識を理解し伝授するのではなく自ら歴史的想像力を発揮して、歴史的知識を生産する主体と見なすことで歴史的思考力の育成を図っているのである。

第二は、子どもの歴史的思考力を育成するため、本授業では子どもの活動を通して歴史的知識を獲得させていることである。

本授業では風俗画「打作」の中、左側にある小作人と右側にある両班を比較させる活動を通して、朝鮮時代の社会的制度や身分制度が理解できるような構造になっている。子ども達は「打作」を通して農民と支配者のそれぞれの衣服やしぐさ、外貌などの特徴の比較から基本的歴史的事実を組み立てる。このような比較活動を通して当時社会の特徴である身分制度や朝鮮時代の基本的支配関係を理解させようとする。

すなわち、歴史的事実を教えるのではなく、子どもが絵画資料からある視点を決め、比較して論理的想像をするなどの活動をさせているのである。このような活動を通して子どもに朝鮮時代の身分制度を理解させ、歴史的思考力・歴史的想像力を育成させ、単なる

イメージだけでなく絵から歴史的知識と教師が想定した枠組みを作り出している創造的側面を教えているのである。「新しい何かをつくり出すときには、創造的な想像力が働いている」¹⁸⁾からである。

第三は、本授業は子どもたちが前時に学習した朝鮮時代の身分制度の枠組みを本時に応用させる枠組みになっていることである。

子どもたちは朝鮮時代の身分制度について知っている知識を活用し絵を通して当時の時代像を探る過程でより生き生きとした身分制度が存在した過去の歴史像を描いていく。両班と常民の上下関係から対立関係を理解させ朝鮮時代の社会関係や社会制度が理解できるのである。このような両班と常民の身分制度における対立や葛藤の理解は、さらに後日16世紀前半の農民武装隊の騒動や1894年東学農民運動など朝鮮後期身分制の瓦解とも密接な関連を持つ枠組みともなっていることである。

5. 授業の問題点及び課題

本授業の問題点及び課題として指摘できることは2つある。

まず、本授業で用いられた「打作図」について製作者の主題や焦点・視点を考慮していないことである。その風俗画がなぜ描かれたか、なぜその場面を描写したかなどの製作者の意図に気づくよう計画されるべきである。そうすることで、子どもたちはより広い視野から批判的視点をもつことができるだろう。

次に、子どもたちに過去の社会がどのように、なぜ変わってきたのかといった質問を追求する探究の過程が抜けている。本時で用いられた金弘道の「打作」には朝鮮時代の身分制度の変化が読み取れるが、それについての記述がされていないのである。

IV. おわりに

本稿では韓国小学校歴史授業における教師の概念的枠組みや知識の構造を分析した。その結果、次のような韓国小学校歴史授業の構造や特徴を引き出すことができた。

第一は、絵画資料を使うことで歴史的思考力の育成を図る新しい授業が行われていることである。

第二は、教師が歴史的知識を教えるのではなく、子どもが絵画資料からある視点を決め、比較して論理的想像をするなど考えるようにすることで、絵から歴史的知識と教師が想定した枠組みを作り出していることである。

以上の結果から最近韓国で行われている歴史的思考力、歴史的想像力を育成するための新たな小学校歴史授業の作りが試みているのが分かった。

【註】

- 1) 곽영순(2007). 「교과별 내용 교수법(PCK) 개발 연구의 이론과 실제」 열린교육실행연구, Vol.-No.10. ; 이화진(2005). 「2005 KICE 교수학습개발센터 콘텐츠 개발·운영: 내용 교수법(PCK) 및 온라인 수업장학 지원 프로그램 개발을 중심으로」; 심광택(2002). 「지리교실수업 개선을 위한 내용지식 분석 사례연구」 한국지리환경교육학회지, 10(3). ; 강대현(2008). 「시민교육과 사회과수업: 시민교육을 위한 초등사회과 수업의 분석과 구성」 한국사회과교육연구학회. 『사회과교육』 제47권 2호.
- 2) 이혁규(2006). 「한국의 수업 문화와 수업 비평의 필요성」 한국교원대학교부설 교과교육공동연구소 ; 이혁규(2008). 「효과적인 수업 관찰 방법」 한국교원대학교 종합교육연수원. ; 류현중(2004). 「사회과 수업 비평: 예술비평적 접근」 한국교원대학교.
- 3) 森分孝治(1987). 「社会科授業研究入門」 広島大学教育学部教育方法改善委員会 『教職カリキュラムにおける理論と実習の総合に関する実証的研究』.
- 4) 重松鷹泰, 上田薫(1965). 『R.R. 方式: 子どもの思考体制の研究』 黎明書房.
- 5) Ola Hallden (1994). On the paradox of understanding history in an educational setting, Gaes Leihardt, Isabel L.Beck and Catherine Stainton (ed.), *Teaching and learning in history*, NJ:Lawrence Erlbaum Associate, pp.27-46.
- 6) 민윤(2003). 「초등학교 역사교육의 실태」 역사교육연구회.
- 7) ICT는 정보기술(Information Technology)과 통신기술(Communication Technology)의 합성어로既存의 IT 개념에 Communication 즉, 정보의 공유およびコミュニケーション過程을より強調する意味을内包している. したがって狭義の概念でICTというのは情報を検索, 収集, 伝達するためのハードウェアとソフトウェアを意味するが, 広義の概念では, これらハードウェアとソフトウェアを利用し
- て, 情報を収集, 生産, 加工, 保存, 伝達, 活用するすべての方法を意味しているといえる.
- 8) 教育部(1997). 『초등학교 교육과정』.
- 9) 教育部(2002). 『초등학교 교사용 지도서 「사회」』 6-1, p. 58.
- 10) 「打作図」は収穫期の農村の脱穀する姿を描いた図である。ゲサン(千齒こき)に稲束を打ち下ろして, 穀類を払い落としている6人の小作人らと, その後方でこれらを監督する人が共に画面に登場している.
- 11) 이태호(1996). 『조선 후기 회화의 사실정진』 학교재, p.136.
- 12) 김만희(2001). 『우리 풍속화 100가지』 현암사, pp.8-9.
- 13) 歴史学習で歴史的な話の要素が含まれた過去の絵を読む時に, Sandler が提案した認知的絵の読み取りプロセスがよく使われている. Sandler は認知的思考の過程により絵を読むプロセスおよび方法を「絵から情報の収集」, 「資料の整理・分類」, 「事実の陳述」, 「推理」, 「予言」の5段階で提示している. (M.W.Sandler (1980). *How To Read Pictures in Improving the Use of Social Studies Textbooks*, W.E.Patton (ed.), Washington, D.C. : National Council for the Social Studies, pp.27-34.)
- 오기열(2004). 「옛그림 읽기 전략의 구안· 적용을 통한 역사적 사고력 기르기」 전국 현장 교육 연구 보고서. から再引用.
- 14) 이희근(2003). 「그림자료를 활용한 초등 사회과 역사학습 방안」 한국교원대학교.
- 15) 同上; 前掲13) 오기열(2004).
- 16) 池野範男(1992). 「歴史理解における視点の機能(1) — 絵画資料理解の分析を通して —」 全国社会科教育学会 『社会科研究』 第40号.
- 17) 김한중(1994). 「역사학습에서의 상상적이해」 서울대학교대학원, p.42.
- 18) 内田伸子(1994). 『想像力—創造の泉をさぐる』 講談社現代新書.

(主任指導教員 池野範男)